

高大連携フューチャーセッション

地域づくりは誰のためか？何のためか？～

マルチセクターから考える～

本企画は、高校生・大学生にそれぞれの将来について考えていただき、自身のキャリアを意識することや大学や高校で学ぶことの大切さに気づいていただくことを目的として実施しました。

日程	2018年2月24日（土）11時00分～16時30分	
会場	市民交流プラザふくちやま 3階 市民交流スペース	
主催	京都高大連携研究協議会 （京都府教育委員会・京都市教育委員会・京都府私立中学高等学校連合会・京都商工会議所・公益財団法人大学コンソーシアム京都）	
共催	公立大学法人福知山公立大学	
参加者	高校生 25名 （大江高校 4名、加悦谷高校 2名、東舞鶴高校 2名、宮津高校 1名、日星高校 16名） 大学生 20名 （京都産業大学 4名、京都府立大学 2名、福知山公立大学 14名）	
スケジュール	11:00	開会 アイスブレイク
	12:00	昼休憩・参加者同士の交流
	12:45	京都府中丹広域振興局事業紹介
	12:55	ロールモデルトーク ※様々なアプローチで地域づくりに取り組む若手～中堅の社会人の方々から、 地域づくりに取り組む思い、実際の活動について紹介いただく 川人 ゆかり氏（合同会社ミラマール 代表社員 社長） 竹内 弘一氏（KBS 京都報道局キャスター） 森田 賢氏（福知山市役所職員） 山添 藤真氏（与謝野町 町長）
	14:20	休憩
	14:30	ワークショップ ※より深く話を聞きたいロールモデルとの質疑応答・意見交換
	16:00	まとめ コーディネーター：杉岡 秀紀氏（福知山公立大学地域経営学部 准教授）
	16:30	閉会

高大連携フューチャーセッションは、普段交わることのない社会人や他校の生徒・大学生と交流し、様々な意見・考えに触れ自身の視野を広げるとともに、大学入学後の学び方、社会に出てからの働き方・生き方の一端に触れ、少しでも先を見据えた進路選択につなげることを目的に実施しています。



今回は昨年に続く2回目の開催で、地域(まち)づくりの切り口から、現在様々な分野で活躍されているロールモデル4名からお話を伺い、さらに興味のあるロールモデルを2名選び、質疑応答・意見交換を行いました。そのあと、大学生・高校生の混成グループでの振り返りで、理解を深めました。



アンケートの結果では、取り組み全体に対する満足度は、満足・やや満足で100%と非常に高く、高校生からは、普段聞くことのない話をたくさん聞き、意見交換などで多様な考えに触れ、「自分と違う考えを持つ人ともっと交流してみたい」、「少しでも地域に携わりたい」、「地元で働きたい」、「今後の進路について少しははっきりした気がする」などの意見がありました。

また、大学生もグループをリードする立場を通じて、様々な気づきを得ることができ、よい学びとなったようで、『『まちづくり』は少し難しいイメージがあるが、ロールモデルから『こうなったらいいな、という理想を考えるとところから始められる』という話を聞き、気軽に地域のことを考えていきたいと思った」、「これからの進路に対するヒントを得られた」、「人との出会いを大切にしたい」などの声が挙がりました。



さらに、ロールモデルとして登壇いただいた社会人の方からも、高校生や大学生との交流により大きな刺激を受け、貴重な経験になったとの感想を頂きました。このように参加者それぞれに新たな気づきや発見があり、大変充実した意義のある取り組みとなりました。

